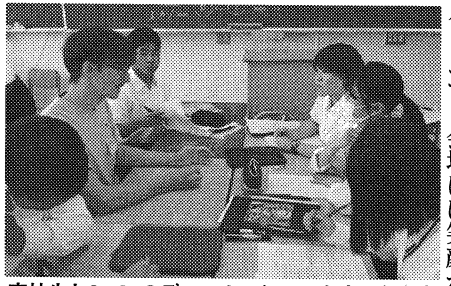
広島大、留学生 国際教育交流・異文化間能力育成研修

広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）留学生（スペイン・ドイツ・インドネシア・中国出身）7人と「日本社会と異文化間能力」（恒松直美・森戸国際高等教育学院准教授担当）を受講している大学院人間社会科学研究科の大学院生が7月21日、広島県立広高等学校と異文化間能力研修と国際教育交流を行った。昨年に続き2回目となる。

第1部は、広高校2年生の総合的探求におけるSDGs研究について高校生から留学生に質問する挑戦をした。第2部では体育館で1年生192人と留学生の国際教育交流を行った。留学生の自己紹介のスピーチやクイズ、ゲームで、会場には笑顔があふれ、大盛り上がりとなった。



高校生とSDGsのディスカッションをする留学生

ドイツの学生の「国際化とは違いを受け入れることです」から始まったスピーチなど、留学生と高校生徒が積極的に話しかけ、交流する姿があった。第3部は、1年生の国際コース31人の授業で、留学生による「高校生と異文化間インタラクションを起こすプロジェクト」実習を行った。最後は、ホームルーム見学、茶道部の茶会に参加し、和紙での箸袋作りを高校生から教えてもらう日本文化体験をし、剣道部の練習も見学した。

留学生には日本の高校を見学する貴重な機会となり、留学生と高校生がつながり異文化についてともに学ぶ心温まる体験となった。

徳島大 広報研修会に66名参加

徳島大学は9月12日、広報研修会を開催した。同大構成員の広報マインド向上を目的とし、国立大学広報についての理解を深め、積極的な情報発信、発信情報の質の向上、広報業務の効率化推進などにつなげる機会として開催されたもの。新蔵キャンパス日亜会館講義室でハイブリット開催し、広報を担当する職員をはじめ、教員や役員、副学長のほか、学生広報スタッフなど、計66名が参加した。

講師には、理論と実践の融合を実践する国内でも数少ない大学広報の研究兼実務者である、追手門学院理事長室次長兼広報課長の谷ノ内識氏を迎え、大学における広報の役割と機能や国立大学広報の現状と課題、広報戦略としてのメディア化等について紹介があった。

後半の質疑応答では、田村耕一理事・副学長の司会進行のもと、対面・オンラインで質問が飛び交い、活発な意見交換が行われた。

今後も定期的に広報研修会を実施し、全学的な情報発信の強化を行う予定だ。

香川大、創造工学部長 第16回海洋立国推進功労者表彰を受賞

香川大学の末永慶寛教授（創造工学部長／創発科学研究科長）が、第16回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）、「海洋に関する顕著な功績」分野の「海洋に関する科学技術振興」部門を受賞した。8月29日に総理官邸で行われた表彰式に参加、9月1日に筧善行学長に受賞の報告を行った。

表彰状を掲げる末永創造工学部長㊧と筧学長

末永教授は自然エネルギー（潮流）の利用に着目し、従来にない流動制御機能を有する水産資源増殖構造物の開発を行い、海域環境改善、水産資源生産力向上に資する技術開発を行ってきた。これまで不明点の多かった人工魚礁の効果の定量化および設置適地選定において、水理実験、数値シミュレーションモデルの構築、AIによる判別システム導入および実海域での生物効果、環境改善に関する実験を経て実証し、震災海域での漁業振興にも貢献。海洋に関する学術論文、特許取得、表彰実績を重ねている。

また、人工魚礁に着脱可能な海藻増殖基質を設けることにより、母藻を傷付けることなく容易に他の構造物へ移設可能としたことで、安定した藻場造成および餌場環境形成を実現し、カーボンニュートラルへの貢献度が高い技術開発を行った（SDGs 7、9、13、14）。

成果は、国家プロジェクトを含む水産基盤整備事業をはじめ、中小企業・地場産業で実際に利活用され、海域環境改善を含む地場産業・経済の発展に寄与している。

徳島大 学連、阿波おどり披露

徳島の真夏の祭典「阿波おどり」が8月12

四国4国大、JR四国 地域観光チャレンジ 成果発表・最終審査会